

家畜排せつ物処理施設で酸欠事故が発生！！

作業する時は安全対策を必ずチェックしてください

（死亡事故の概要）

7月25日に茨城県かすみがうら市の酪農家で育成舎地下のふん尿貯留槽内において経営者とその息子が亡くなりました。貯留槽内に落ちた子牛を助けようとして槽内に入り、槽内に充満していた高濃度のメタンガスによって酸欠したようです。

（酸素欠乏の危険箇所）

酸素欠乏の危険箇所は、「し尿、汚水、その他腐敗しまたは分解し易い物質を入れてあり、また入れたことのあるタンク、船倉、槽、管、暗きよ、マンホール、溝またはピットの内部」とされています。（労働安全衛生法）

（安全対策）

密閉式の発酵処理施設は「酸素欠乏危険箇所」ですので作業を行う場合は安全対策が必要です。①酸素濃度を測定し（検知管等）②換気を行い（酸素濃度18%以上に保つ）③換気不十分の時は呼吸用保護具（酸素マスク、防毒マスク等）を装備し④安全帯等（転落防止）を使用して⑤避難用具などを備え付けて⑥酸素欠乏危険作業主任者を選任し⑦人員の点検と立ち入り禁止措置等の対策をとりましょう。

密閉型の発酵槽内には高濃度のアンモニアが充満していることも多く見られます。アンモニアガスを吸い込むと鼻やのどの粘膜が激しい刺激を受け、高濃度（0.1%以上）のガス吸引や長時間の吸入で気管や肺に炎症を起こしたり、目に入ると結膜や角膜に炎症を起こし失明の危険すらあります。

（その他の安全対策）

- ① 施設の機械・設備の運転に関する安全対策
 - ・ 感電、転落事故の防止等
 - ・ 重篤な障害事故防止
 - 自動運転中の機械との接触・巻き込みに注意
 - ・ 傷害事故の防止
 - 異常時の運転中止、漏電等の点検
 - ・ その他の留意事項
 - 整理整頓、作業の際の服装点検、防水対策、落雷対策等
- ② 発火、火災、炭化対策
 - ・ 堆肥が水分30～40%に乾燥した状態で大量に堆積（3m以上）すると、発酵熱によりくすぶり発火の危険性があります。
高温・乾燥期には注意が必要です。
堆積高3m以下にして、堆肥の温度が60℃を超えたら切り返しましょう。